

タイトル：2025 年度 教育セミナー（第 21 回）

日時：2025 年 9 月 18 日（木）～21 日（日）

場所：東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 3 階 大会議室（303）

「共和国初期における『トルコ人の祖国』誌にみる帝国外出身思想家の知的空間としての機能」  
安竹 海翔（東京大学大学院）

私は 4 日間の中東☆イスラーム教育セミナーに参加し、講義や他の参加者の方々の発表、自分自身の発表へのフィードバックを通じて多くの刺激を受けることができました。有益なご意見を頂いた先生方、受講者の方々、運営の方々には感謝を申し上げます。ありがとうございました。

私は昨年度のセミナーに発表なしで参加させていただき、中東☆イスラーム教育セミナーが普段はお会いすることがないような他分野の方々や権威の先生方に自分の研究報告ができる場だということを知りました。そして同時に来年度のセミナーでは報告をすることを決めました。加えて前回のセミナー以降 AA 研の先生方とかかわる機会も数多くありながら自分自身の研究内容についてお話をさせていただく機会もなかったのでその点も参加の動機になりました。

今回のセミナーでも日本全国から受講者の方々が集まっており、関心領域が近いながらも普段からお会いすることがない方々と交流することは非常に大きな刺激となりました。また、関心領域や時代が遠い方々のお話をうかがうことができたことも中東☆イスラーム教育セミナーの醍醐味の一つであり、様々なご報告を聞くことによって内容的にも方法論的にも大変勉強になりました。

私は今回、修士論文の内容の一部分にしようと考えているものを報告のテーマとさせていただきました。私の関心領域全般は、近現代の間の時代であり、またトルコやオスマンとロシア、中央アジアの狭間ということもあって関係する先生や受講生の方々も多かったこともあり、多方面から重要なご指摘を頂くことができました。それらのご指摘は、私が今まで用いてきたタームの意味についてであったり人物の背景、時代背景といったことに関することが多く、私が申し上げた結論もこれらに規定されるため、土台となるこれらをもう一度精査するという必要性を感じました。また、問題点と同時に研究の深化を図るようなポジティブなご意見もうかがうことができました。頂いたご意見から、問題点は改善し、興味深い点はより文献を深く掘り下げて考察し、研究していけるようにしたいと思います。

今回の中東☆イスラーム教育セミナーは総じて普段得られないような刺激を得られるとともに研究的にも大きな意義があるものでした。これらや頂いた励ましの言葉を糧にして気持ちを新たに、今後の研究や修士論文執筆に向けて邁進していこうと思っています。